

厳しい気象から翼を守れ、を、かたちに

第4回

WEATHER-Eye オープンフォーラム

2019 12.11 WED

13:00-17:25 12:00 受付開始

一橋講堂

千代田区一ツ橋 2-1-2
学術総合センター 2 階

東京メトロ東西線 竹橋駅 徒歩 4 分
東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線 神保町駅 徒歩 4 分

● 基調講演 1

13:05-14:05

「航空機の運航における特殊気象への対応」
～運航管理者はどう関わっているのか～

浦 健一 氏 ほか

(日本航空株式会社 IOC 気象チーム)

● 基調講演 2

14:05-14:35

「操縦士と航空気象」

山本 秀生 氏

(公益社団法人 日本航空機操縦士協会 航空気象委員長)

● 一般講演 5 件

参加費無料 / 定員 400 名

● プログラム

基調講演、最新の研究開発動向 他

フォーラム終了後交流会 (会費制 3,000 円、要事前登録)

● 参加申込方法

公式 Web ページから申込み (ページ開設は 10 月中旬予定)
<https://www.weather-eye.jp/event/weye2019.html>



● 後援／協賛

国土交通省、文部科学省、航空交通管制協会、電気学会
土木学会、日本ガスタービン学会、日本機械学会、日本気象学会
日本技術士会、日本光学会、日本航空宇宙学会
日本航空宇宙工業会、日本航空機操縦士協会、日本航空技術協会
日本雪氷学会、日本複合材料学会 (すべて予定)

● 主催／お問い合わせ

気象影響防御技術 (WEATHER-Eye) コンソーシアム
コンソーシアム事務局 info@weather-eye.jp





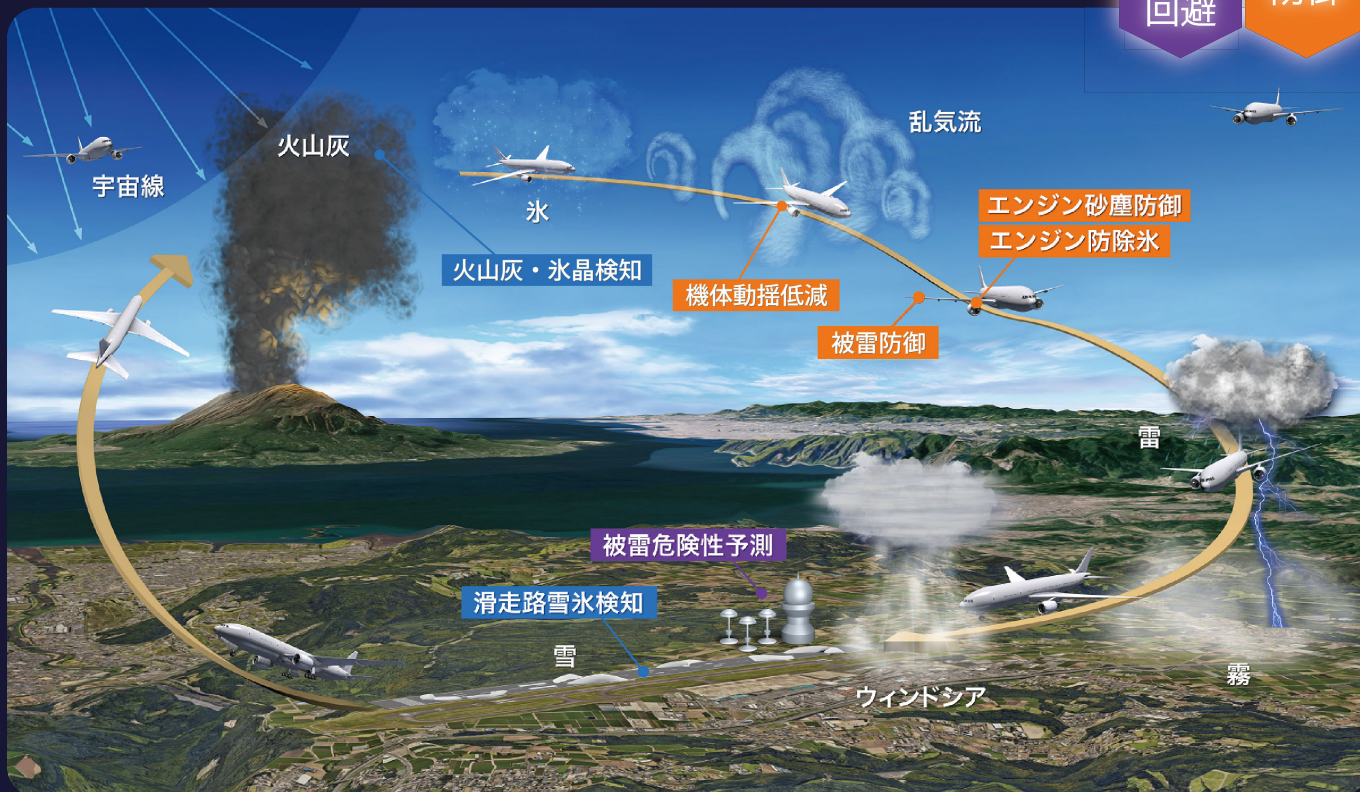
気象影響防御技術

WEATHER-Eye

雪氷・雷・火山灰などの特殊気象による航空機運航への影響。

機体の安全性を効率的に維持するため、機体・滑走路の状態や気象状況を検知し、予測・防御する。

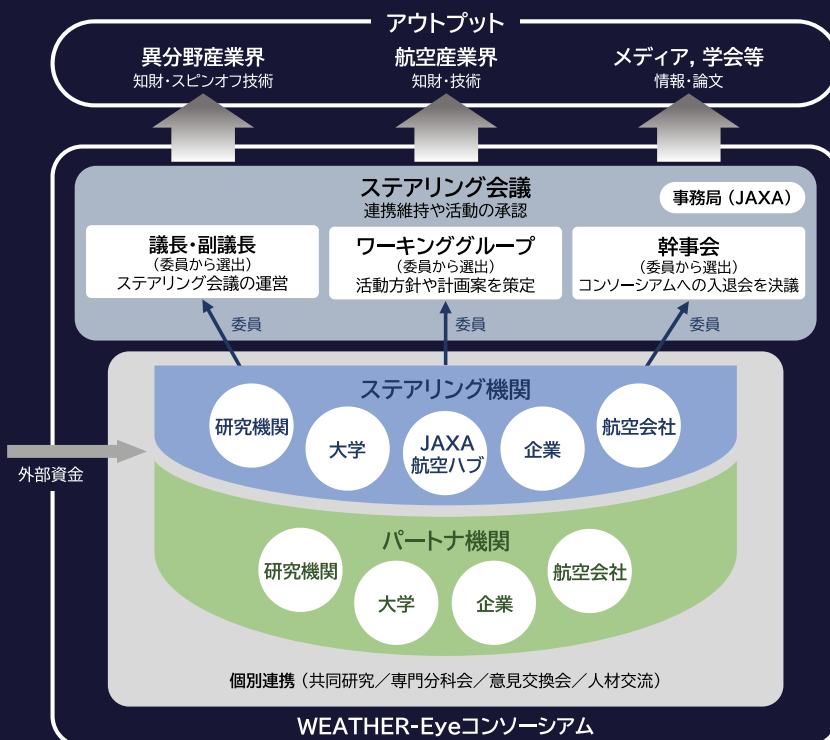
WEATHER-Eye が運航安全性・効率性を革新的に向上させます。



WEATHER-Eye コンソーシアム

特殊気象（雪氷・雷・火山灰等の航空機に影響を与える気象）に対する運航安全性及び運航効率向上のための技術－気象影響防御技術－の研究開発が重要となっています。

研究開発には、航空工学の枠を超えてさまざまな分野の知見を糾合したイノベーションを、オールジャパン体制で推進する必要があります。これを実現するため、運航会社・メーカー・大学・研究機関が集まり「気象影響防御技術の研究開発に関する連携協定」が 2016 年 1 月 15 日に締結され、「気象影響防御技術コンソーシアム（別称：WEATHER-Eye コンソーシアム）」が設立されました。



加入機関（全 26 機関） ※五十音順

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、神奈川工科大学、関西大学、気象庁気象研究所、国立大学法人北見工業大学、国立大学法人熊本大学、株式会社 JAL エンジニアリング、株式会社 JALUX、公立大学法人首都大学東京、株式会社 SUBARU、株式会社 センテシア、全日本空輸株式会社、双日株式会社、国立大学法人東京大学、国立大学法人東京農工大学、東京理科大学、国立大学法人東北大学流体科学研究所、国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所、国立大学法人名古屋大学ナショナルコンポジットセンター、日本アビオニクス株式会社、日本ペイント・サーフケミカルズ株式会社、日本航空株式会社、日本特殊塗料株式会社、国立研究開発法人防災科学技術研究所、丸紅エアロスペース株式会社、国立大学法人山形大学